

寒さが厳しさを増す中、野生生物共生センターではオオハクチョウやシロハラなどの冬鳥が保護されることが多くなりました。

### ネズミ捕りにかかった鳥たち

昨年 11 月に、ネズミ捕りにかかってしまい全身が粘着シートでベタベタになったドバトが野生生物共生センターへ運ばれてきました。動物たちの救護の要因には様々な理由がありますが、野鳥が粘着シートのネズミ捕りにかかってしまう事故は後を絶ちません。2018 年には同様の入院が 4 件ありました。

粘着物でベタベタになった羽では空を飛ぶことができないため、綺麗な羽になるまで粘着物を除去していきます。しかし粘着シートを剥がすときには注意しなければならないことがあります。例えば、無理に粘着シートを剥がそうとすると、足や翼の骨を折ってしまうなど更に怪我を悪化させてしまうことがあります。また、粘着物を剥がすシンナー系の薬剤や灯油などの油は刺激が強く、使用できません。水や洗剤を用いた洗浄方法は、小鳥の場合、身体を濡らすとすぐに体温が下がって死んでしまう危険を伴います。

そこで共生センターでは主に小麦粉を使用しています。粘着物がついている部分に小麦粉をまぶすとベタベタがなくなります。小麦粉をかけながら指でやさしくこすって羽をなるべく痛めないように粘着物を除去していきます。野鳥は人間に触られるストレスで弱ってしまうこともあるため、毎日 10 分や 15 分など時間を決めて鳥の様子に注意しながら少しずつ除去していきます。羽が折れてしまっている時はハサミでトリミングをすることもありますが鳥の羽はすぐに生えてきません。次の羽に生え変わるには数か月から一年近くかかります。



粘着シート式のネズミ捕りにかかってしまったドバト



小麦粉を使用した粘着物の除去作業



毎日少しずつ羽をきれいにしていきます

粘着シートのネズミ捕りを使用している方も多いと思いますが、野鳥がよく来る場所に置いてはいないでしょうか？今一度、設置場所を確認してみましょう。もし粘着シートにかかってしまった野生動物を発見した場合は野生生物共生センターまでお気軽にご相談ください。

### 【クイズのこたえ】

#### クイズ①：イノシシ（ウリボウ）

（イノシシは子どものころに体にしま模様があり、瓜に似ていることから「ウリボウ」と呼ばれています。イノシシは繁殖力が強く、毎年春に最大10頭ほどの子どもを出産します。しま模様は離乳する生後3か月後ごろからなくなり始めます。）

#### クイズ②：B. キューン

（タヌキはイヌと異なり「キューン」や「クンクン」と鳴きますが、野生でその鳴き声を聞くことは非常にまれです。）

#### クイズ③：C. 1億円以下

（特定外来生物を許可なく、輸入、販売、販売・配布目的の飼養、又は野外に放出（キャッチアンドリリースの場合は許可がなくても処罰の対象にはならない）してしまった場合は、外来生物法に基づき罰則・罰金の対象となり、個人の場合は3年以下の懲役又は300万円以下の罰金が、法人の場合は1億円以下の罰金が科せられます。）

平成31年2月1日 福島県環境創造センター 附属 野生生物共生センター

# あだたら 森の回覧板



Vol. 7 冬号

## 【雪上の動物の足あと】

野生生物共生センターの付近では冬期間に様々な野生動物の足あとが雪の上に残されています。ここでは、よくみられる動物の足あとをご紹介します。

### ノウサギ

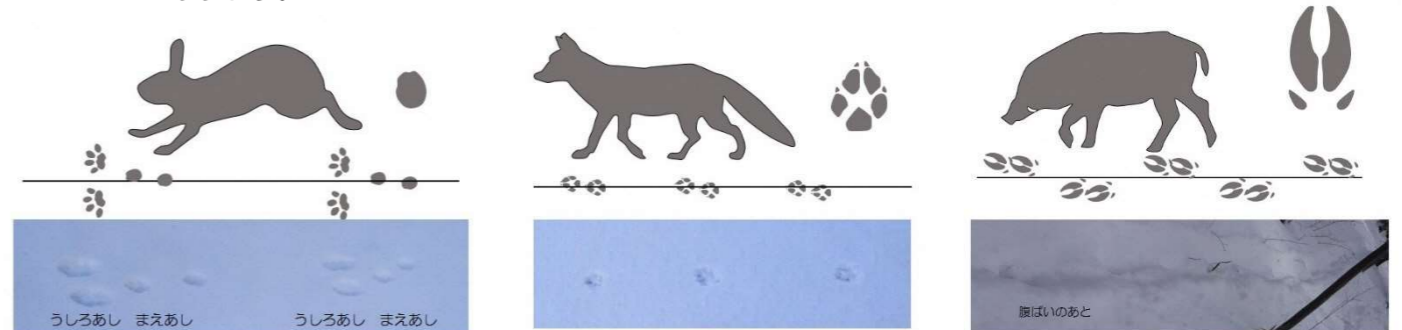
ノウサギの足あととは最もよくみられるものの一つです。ノウサギは大きくジャンプをするような姿で走るため歩幅が大きく、非常に特徴的な形のあとがつきます。

### キツネ

キツネは犬やタヌキとほとんど同じ足あとの形をしています。しかし歩行のあとが異なり、犬やタヌキの足あととはジグザグにつく特徴がある一方、キツネの足あとは一直線につく特徴があります。

### イノシシ

イノシシは足あとがヒツメの形をしているのが特徴です。カモシカやニホンジカと異なり、副蹄と呼ばれる小さいヒツメが足あととして地面に残ります。雪深いところでも進んでいくことがあり、雪の上に腹ばいのあとがつくこともあります。



2月10日（日）には公益財団法人ふくしまフォレスト・エコライフ財団、特定非営利活動法人福島県の案内人の会と共催で「動物の足あとさがし」を開催します。野生生物共生センターの付近の動物の足あとをさがし、足あとの特徴などを説明する内容となっています。お申込みの際はフォレストパークあだたら（電話番号 0243-48-2040）へご連絡をお願いします。

野生生物共生センターでは、野生動物の剥製やパネルの展示、映像放映等をおこなっており、入館料無料で自由に見学・閲覧できます。

救護棟、野外訓練場は立入禁止ですが、屋内訓練場にて野生復帰訓練をおこなっている場合は、観察コーナーからその様子をご覧いただけます。

詳しくは... [HP](#) [環境創造センター](#) [検索](#)

発行：福島県野生生物共生センター  
〒969-1302

福島県安達郡大玉村玉井字長久保 67

電話 0243-24-6631

(9:00~17:00 月曜休館日)

## 環境学習会

前号の広報誌でもご紹介しましたが、野生生物共生センターでは今年度、環境学習会を実施し、参加者の方に生物多様性の保全等について学習していただきました。ここでは、第4回、第5回の内容についてご紹介します。

### 第4回 テーマ：地球環境の変化

第4回の環境学習会では、9月30日(日)に国立環境研究所 生物・生態系環境研究センターのこいでだい小出大先生をお招きし、地球環境の変化が生態系に及ぼす影響についてお話いただきました。

現在、地球全体においては温暖化が進んでおり、日本においても気温の上昇、降雪量の減少のほか、降水量の多い日が増える等、気候の変動が進んでいます。

小出先生によるとこのような気候変動は、鳥の渡りの時期の変化や動物の生息場所など動物の生態に影響を及ぼすだけでなく、植物の生態にも大きな影響を及ぼしているとのこと。スペインやハワイ、フランスでは植物が今までよりも標高の高い土地に分布を広げているというお話がありました。日本においてもこのまま温暖化が進むと、しんようじゆ針葉樹が枯れてしまったり、リンゴの栽培適地の縮小が進むとみられています。

学習会の後半では、参加者の方々に福島県内における100年後のコナラ、ブナ、オオシラビソの分布を予想してもらうワークショップをおこないました。それぞれの樹木について現在の分布から生息に適した気温を計算によって推定し、100年後の県内の気温予測をもとに樹木の分布がどう変化していくかを予想してもらいました。小さいお子さんには難しかったようですが、保護者の方と協力しながら推定モデルを作成されていました。



### 第5回 テーマ：東日本大震災による避難地域の生態系への影響

第5回の環境学習会では、11月10日(土)に国立環境研究所 福島支部のたまおきまさのり玉置雅紀先生をお招きし、東日本大震災による避難地域の生態系への影響について調査器材等の説明を交えながらお話いただきました。

お話の前半は津波によるひがた干潟の生き物への影響に関するものでした。干潟にはカニ類や、ゴカイ類、二枚貝類、ヨコエビ類など様々な生き物が生息していますが、生息状況調査の結果を津波の前後で比較するとゴカイ類やヨコエビ類の生息密度が著しく増加していました。これは津波でヘドロが押し流されて生育環境が良くなったためとみられています。一方、貝類はほぼ絶滅してしまったことや、復旧工事により干潟自体がなくなってしまった所もあり、津波によって干潟の生態系が大きく変化してしまった地域もありました。

お話の後半では避難によって人がいなくなってしまったことによる影響についてご説明いただきました。避難地域においては、鳥類ではスズメやツバメ、カラスが、昆虫類ではアゲハ、セイヨウミツバチが地域外と比べて生息数が少ないとの調査結果が得られています。これらの人に依存した生き物は、震災により避難地域の生息数が減少してしまったと考えられます。逆に、イノシシやニホンザルといった害獣は、人がいなくなったことで活動量が増加し、避難地域で多くみられるようになっていきます。特にイノシシについては、体内に多くの放射性物質が含まれていること、個体数も多く繁殖率も高いため駆除しても効果が出にくいこと、駆除したイノシシを処理するのが大変であること等、課題も多く存在しています。

東日本大震災では、人の生活に大きな影響を及ぼしましたが、生き物についても同様に影響を及ぼしており、その生息分布を調査することの重要性についてご説明されていました。



## バードコール作り

野生生物共生センターでは、冬のワークショップとして「バードコール」作りを実施しています。

「バードコール」とは、鳥の鳴き声に似た音を出す道具のことです。市販されているものではカラスやキジの鳴き声を出せる笛タイプのもものありますが、今回のワークショップでは特定の鳥の声を再現するものではなく、木の枝と金属のネジを使ってキュキュキュという音を出すシンプルなタイプのバードコールを作ります。

作ったバードコールを持って、公園や森林などで鳴らしてみましょ。近くに野鳥がいればバードコールに反応してくれるので、鳴き声が聞けるはず。日本には四季を通じて生息するりゆうちよう留鳥、特定の季節にやって来る渡り鳥など非常にたくさんの種類の鳥がいます。また、生息場所も山や森林、川や海の付近、などいろいろなところがあり、市街地や公園など身近なところでも多くの野鳥が観察できます。これをきっかけにどこにどんな鳥がいるのか、何故そこにいるのかなど、野鳥と自然環境との関係を考えてみましょう。

※「バードコール」作りは、なぜ「冬」のワークショップなのでしょう？  
春～初夏のはんしよくき繁殖期には鳥たちは子育てのためなわばり意識が強く、神経質になっています。鳥たちを刺激しないためこの時期にはバードコールを鳴らさない方が良いでしょう。



木とネジで簡単に作れます



外で鳴らしてみましょ



身近にいる鳥たちを観察してみましょ



## クイズ?

### クイズ① お子様向け 難易度 ★☆☆

わたしはだ〜れ?



子どものころは  
からだにしまもようがあるよ!

### クイズ② 中・高生向け 難易度 ★★☆☆

どっちがどっち?

タヌキはイヌ科に属する動物ですが、実際の鳴き声に近いのはどっち?

- A. ワン
- B. キューン



### クイズ③ 大人向け 難易度 ★★★

生物多様性クイズ

特定外来生物は生態系等に大きな影響を与えてしまうため、許可なく輸入、販売、飼養または放出をした場合には罰則や罰金の対象となりますが、法人の場合の罰金額はいくらでしょう?

- A. 300万円以下
- B. 1000万円以下
- C. 1億円以下